

気候をビジュアルに理解し、思考する

地理歴史 地理B 普通科第2学年

石川県立金沢桜丘高等学校・教諭

1 事例の概要

本校の生徒は概ね高い学力を有し、そのほとんどは四年制大学への進学を希望し、多くが国公立大学を中心とした難関大学への合格を果たしている。授業中の態度も良好であり、集中力を欠くことは少ない。

地理Bの学習指導要領は、その目標に「現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う」こと、また「内容の取扱い」(1)のイでは「地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう指導する」こと、さらに、地理歴史科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮する」としている。

そこで、数年前から今回の事例に示した写真を用いた作業を通じた授業を取り入れてきた。特にJICA（国際協力機構）が発行しているフォトランゲージキットは学校教材として作成されたものではないが、「地理的な見方や考え方」を単なる文字としての知識だけではなく、そこからさらに転移性のある見方や考え方を育てるひとつの「教材」となったことは、生徒の感想を見ても明らかである。現在、テレビやインターネット上で溢れている動画を教材とするよりも、写真の方が隅々までじっくり見て情報を読みとることができ、またその瞬間の限られた範囲のモノや人からその時間的空間的広がりを考えることができる。この活動がまさに「地理的な見方や考え方」の涵養に繋がると考えている。

2 実践内容**(1) 単元の目標**

- ① 世界の気候について、その成り立ちを大観する。
- ② それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。

(2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 写真に対する意欲・関心を高める工夫
 - ・写真を各グループに分ける際に多くの情報をあえて与えず、さまざまな意見を出させる時間を大切にする。
 - ・各グループごとにその国や地域の自然環境や文化についてまとめさせる際、「なぜそう判断したか。」を大切にしながら議論させる。
- ② 写真を通して地理的事象を理解するための工夫
 - ・各グループの発表の際、他のグループとの質疑応答の時間を設ける。
 - ・各グループの発表ごとに教師が補足説明できるような時間を設ける。
- ③ 学力定着の工夫
 - ・毎回、授業の最初の3分間を使って、前時の授業内容について確認テストを行っている。
 - ・指名しておいた生徒2名が単答式の問題を5題考えてきて、口頭で問題を出す。
 - ・教師が解答用紙を配付すると同時に教壇から生徒が問題を出し、解答時間1分程度でその場で回収する。

B-1 写真教材の説明（国際協力機構作成のフォトランゲージキットを用いる）**B-2 生徒が付箋紙を貼った用紙**

3 指導の実際

- (1) 前時の復習
(3分)

前時の授業内容についての確認テスト
(生徒による口頭単答式問題5題を解答する。)

- (2) グループによる活動

- ① グループに分かれ、班長を決める。
- ② 写真教材数枚が配付され、その写真についてどんな国のものかを考え、各自が付箋紙に書き込んでいく。その付箋紙を班の真ん中に置いた模造紙に貼り付けていく。
- ③ 班長がその付箋紙を整理し、みんなの意見を取り入れながら同じ物をまとめたりしてグループ化することによって、班の意見をまとめる。
- ④ 教師は各グループを巡回し、その意見を聞きながら視点の優れた点を評価し、不足している部分を補いながらそのグループの意見をまとめる補助をする。

- (3) 全体に向けた活動

- ① グループごとにその写真を掲げながら発表
- ② 他のグループによる質疑応答
- ③ 教師による補足説明

- (4) まとめと振り返り

- ① 振り返り用紙の記入
- ② 教師による全体のまとめ

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・写真教材は普通の教科書や資料集に掲載しているような、すでにいわゆる「説明」がなされている写真とは異なり、生徒が本来持っている知的好奇心をくすぐりやすいことや物珍しさもあって生徒の興味を引きやすい。事実、振り返り用紙にはこの教材そのものに対して肯定的な意見が多い。
- ・写真教材は、生徒の目を1点または限られた点に引きつけることができるという点で第一義的に有効であり、またグループ内で同じ情報を同時に共有しているという実感を持たせやすく、そのため発問をしても普段以上に懸命に考えて答えをひねり出そうとする。
- ・また他の生徒の発表を聞くことによって自分にはない観点や問題を掘り下げる能力に気づくことも生徒の感想から見ることができる。

(2) 課題

- ・写真教材を用いた授業で大切なことは発表された結論的な内容とともに、むしろそれ以上に生徒の活動を評価することである。そのため、机間指導をしてそれぞれのグループでどんな意見が出ていて、各生徒はどう考え、それに対してどのような意見を持っているのかを聞き取っていく作業が必要である。
- ・小さなグループの中では比較的容易に話してくれる場合が多いので、ここでの「インタビュー」は「関心・意欲・態度」を見極め、「思考・判断」しているかを知るために大いに参考となり、むしろ教師としては結論の発表よりも面白く、ここが腕の見せ所となる。しかしここでその評価をどのように考えるかは難しい問題である。生徒に書かせる「振り返り用紙」もその評価の有力な材料となるが、発表された資料とともに途中の話し合いの場面をどう評価に組み込んでいくかが課題である。

D-1 振り返り用紙による生徒の感想

D-2 生徒による確認テストの趣意書